

使徒言行録 10 章 34 節～39 節。そこで、ペトロは口を開きこう言った。「神は人を分け隔てなさないことが、よく分かりました。どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです。神がイエス・キリストによって——この方こそ、すべての人の主です——平和を告げ知らせ、イスラエルの子らに送ってくださった御言葉を、あなたがたはご存じでしょう。ヨハネが洗礼を宣べ伝えた後に、ガリラヤから始まってユダヤ全土に起きた出来事です。つまり、ナザレのイエスのことです。神は、聖霊と力によってこの方を油注がれた者となさいました。イエスは、方々を巡り歩いて人々を助け、悪魔に苦しめられている人たちをすべていやされたのですが、それは、神が御一緒だったからです。

百人隊長コルネリウスは親類や友だちを大勢集め、ペトロの来訪を待った。ペトロの訪問を受け、「よくおいでくださいました。今わたしたちは皆、主があなたにお命じになったことを残らず聞こうとして、神の前にいるのです」と申し出た。ペトロは口を開き、まず「神は人を分け隔てなさないことが、よく分かりました。どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです」と語り始めた。

パウロもガラテヤ書 2 章 6 節 c で「神は人を分け隔てなさいません」と書いている。パウロのこの信仰が異邦人伝道を可能にし、キリスト教を世界の宗教にしたのである。ペトロは、ユダヤ人と異邦人が共にいるコルネリウス邸で、神は民族によって分け隔てをされないことが分かりましたと語っている。使徒言行録 10 章の全てを費やして、コルネリウスへの伝道に関する記述を記しているが、メッセージの核心は民族差別の克服である。このメッセージは福音の本質で、キリスト教が世界に向かって発信し続けたものである。

ペトロにとって、異邦人に対する初めての説教であるが、内容は当然、ユダヤ人に対するものと同じである。キリスト論的宣教（ケリュグマ）で貫かれている。あなた方は、神がイエス・キリストによって平和を告げ知らせるために、イスラエルに送ってくださった御言葉について、ご存知でしょうと続けている。主イエスのガリラヤでの「神の国」の宣教、そして、エルサレムでの十字架と復活は多くの人の知るところになっていたということであろうか。ペトロは「この方こそ、すべての人の主です」と、神から遣わされたイエス・キリストが民族を超えた全人類にとっての「主」とであると力説している。イエスを「主」と信じ、告白するところに、共に生きていく平和が実現する。この平和の告知は洗礼者ヨハネの宣教活動後、ガリラヤから始まり、ユダヤ全土で起きた出来事である。この出来事を現したのはナザレのイエスである。主イエスが現された平和の福音は抽象的な理念や哲学的な概念ではなく、人々の間で起こった出来事であった。ペトロは「御言葉を、あなたがたはご存じでしょう」と言っている。イスラエル人にとって御言葉は、そのまま神の具体的な行為である。パウロはコリント書（一）1 章 18 節で「十字架の言葉は … 神の力です」と、十字架による救いの出来事を「十字架の言葉」と言っている。

主イエスは方々を巡り歩いて、悲しみ悩む者を助け、病む者を癒し、悪魔（汚れた霊）に取りつかれた者から悪霊を追放された。生きて働く神の恵みのリアリティを御言葉・出来事として、民衆の間で具体的に示された。それは、神は聖霊と力によって、主イエスを油注がれた者・キリスト（救い主）とされ、神がご一緒だったからである。